

## 「根室空襲犠牲者追悼式」開催

根室空襲研究会



根室市は1945年7月14日、15日にアメリカ軍による空襲を受け、市内の8割が焼失し、400名近い方々がその犠牲となりました。

7月15日、根室空襲研究会が主催し、市が昨年建立した平和祈念の碑の前で空襲犠牲者の方々を追悼する会を開催。空襲に犠牲となったご遺族の方々なども参加されておられました。

### イラク支援ボランティア 高遠菜穂子さんが話す イラクから見る日本 ～暴力の連鎖の中で 考える平和憲法～

2003年にはじまったイラク戦争から今年で13年。高遠さんはイラクは現在、戦後「最悪」の状況だ、と語ります。イラク戦争後、テロ組織のIS(イスラム国)が台頭し、人類が今までに経験した事が無いような対テロ戦争に突入し、どこで何がおこるか予測が付きません。

現在のISの脅威はイラク戦争に原因しているというブレア首相の言葉を紹介し、いま世界が直面しているテロの脅威を解決するためにどうすべきか。アメリカ・イギリス・オランダのように日本もイラク戦争を検証すべきと述べていました。

2016年7月16日(土)

ねむろ「九条の会」(細川憲了代表世話人)は、設立10周年記念事業として根室市総合文化会館で講演会を開催しました。講師はイラク支援ボランティアとして長年活躍している高遠菜穂子さん。

市民ら80名が参加し、日本人が知らないイラクの悲惨な現状を学びながら、こうした世界情勢の中で今後日本がどのような役割を果たしていくべきかを考えるきっかけとなりました。



また、イラク政府が主導する凄惨な宗派対立、有志連合の空爆、ISが起こしている残虐なテロ行為の様子について、世界中のメディアが報道しているのに日本のマスコミだけが、こうしたニュースをほとんど取り上げない問題に触れ、「武力行使を否定するためには、泥沼に陥る前に手を打つ必要がある。日本はこのような「情報鎖国」を克服しなければならない」、と警鐘します。

高遠さんがこの2年間、イラクに人たちに一番言われたのはISやイラク政府による殺戮を「止めて」、欲しいという言葉。「戦争をしない国」というだけでなく、日本がどうやったら「戦争を止める国」になれるのか。私の生きていく上の最大のテーマになっていると最後に語りました。

